大雪山の素顔

だいせつざんのすがお

このコーナーでは、山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員など旭岳で活躍する人たちをリレーして、季節とともに変化する旭岳の旬のお便りをお届けします。

高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」と言われる大雪山の素顔が見えてくることでしょう。

少年団活動風景

愛護少年団と一緒に

「東川町大雪山愛護少年団」という東川中学校のボランティアグループをご存知だろうか。その名のとおり大雪山の自然保全や登山マナーの啓発などを目的に、昭和43年に結成された歴史ある団体だ。年間８回ほどの団体活動が基本だが、団員個人が行ける日を選び天人峡や姿見をパトロールする自主活動もある。３月には春の森で残雪行動技術と自然観察を行った。

スノーシュー（かんじき）をはき、手には図鑑と双眼鏡。ソリにはスコップなどの雪遊び用品や携帯コンロを積み込んで森の奥へ探検に出かける。さっそくエゾシカの食痕を見つける。シカはニレの木を好むようで、皮がストリングチーズのようにむけ、遠くからでも白く目立つ。少し離れた木には、ヒグマの爪あとが見える。ヒグマが木を上り下りした様子が、痕跡から明確に分かる。ヒグマを見ることはめったにないが、その存在を感じることができた。

自然ウオッチングの後は、恒例の急斜面ソリすべり大会。手を突いて登るくらいの急斜面を一気に30メートル近くも滑り降りる。この時期は雪も硬く、かなりのスピードが出るのでスリル満点だが、転んでも止まることは難しい。

しかし、そこはさすが愛護少年団。準備の良い子はゴーグルを持ってきており、受身のしかたも知っている。「楽しく安全な遊び方」を心得た頼もしい奴らだ。

登山道の崩壊などが懸念されている大雪山だが、このような中学生を見ていると安心する。高校生になってもボランティアとして来てくれる団員もいる。この仲間がいれば、１日で70kgものごみを拾う道路の清掃活動も何とかなりそうだ。５月には新１年生が入り、６月17日（土）山の祭りでは、山開きに向けた清掃活動を行う。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

※愛護少年団と一緒に自然保全活動にお手伝い頂ける方を募集しています。連絡先☎0166-82-6500　Email/daisetsu@neos.gr.jp

文：大雪山自然学校　荒井一洋

短歌

梅を活け桃を活けゐて春を待つ八十路の坂はゆっくりとのぼらん　松倉和子
人一期人それぞれに魔と出逢う癌病む友の日夜を憂う　那須喜美
纏らぬ歌より逃れ大根を千六本に刻みてもみん　瓜生昭枝
久しぶり雨のしずくが窓を打つ待ちわびし春呼びいる如く　岩田ふじえ
ぜらにうむ赤やぴんくにぼうくしゃも開けど外は斜め雪降る　岡澤チズ子
合い言葉「元気なうち」と友と行く自然遺産の知床の旅　笹田冨士子
モノトーンの佗びしき季節も後わずか太陽は背に春を告げをり　永江栄子
お彼岸と言えば荒れると千々に舞ふ雪案じおり今日彼岸入り　矢沢ますえ
散歩する雪の間に間に上の芽が陽ざしまぶしく花の様なり　清水チヨ
横に降る風の向き見ゆ彼岸荒れ一人留守居のひと時のこと　嶋崎ミエ
この糸をばさりと切りて翔び発たんマリオネットの瞳かがやく　宮坂敬子
ゼラニューム我が世の春と競い咲く北風荒ぶ彼岸の入りに　中田治子
ふふらふらこの世もあの世もふふらふら夢や幻ふふらりふらり　井山一文
幼なきに母着せくれし袖無しのコスモスの柄未だ忘れじ　尾池真沙子

俳句

廃駅の父と来しとこ春の海　秋山深雪
金婚や子らの花束山笑ふ　杉山ひろのり
真実に色ありとせば四月馬鹿　石澤清宏
地の果てはまだ雪のなか桜だより　松山蓉子
流氷の去りてようやく海明けぬ　杉山りつ
ひと振りの音確かめて種袋　澤田久美子
蕨狩り語りて歩み競い合う　山口佐知子
早蕨の握りコブシのほつれけり　徳光吐苦
蕨和えうまいの一と声夕餉かな　青野公花
早わらびの昨日俯き今日立てり　小林露葉
早蕨や綿毛の中の地のぬくみ　宮坂紫雲